

令和元年度 事業報告

岡山理科大学専門学校



建築と動物そして水生生物のスペシャリストを養成。学生、保護者、学校、地域、関連業界の皆様へ支持され愛される学校を目指します。



本校は、節目の 50 周年に向けて職業を意識した専門学校として、企業・業界・社会のニーズに対応した質の高い教育を目指します。そして、文部科学省が推進する高度職業実践の高等教育機関創設という将来展望に対し、柔軟に対処できるよう、将来性を意識した学校運営に取り組んで参ります。

<重点施策>

1. 業界団体の意見や要望に応え得る人材育成のために、職業人育成に主眼を置き、教育内容の改善を行います。
2. 「職業実践専門課程」を有する学校として、業界団体等が行う技術研修へ教員派遣を積極的に進め、教員の資質向上に努めます。
3. より実効性のある教育体制を構築するために、教育組織の改善に取り組みます。
4. 急速に変遷し、グローバル化する社会のニーズを真摯に受け入れ、本校の特徴を生かして柔軟に対応して行きます。
5. 本校のブランディング効果を上げるため、全教職員が協力して学校教育に当たります。

岡山理科大学専門学校 校長 奥田 宏健

I. 教育について

1. 教育に関する中期目標			
中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告	
(1) 1年次中に「キャリア教育」を体系化する。			
①入学直後から職業人意識を育む講演を慣例化し、「キャリアデザイン」の履修を図る。	I-1-1	○地域が要求する職業人能力の育成を目指し、実務能力を高め、仕事力のある人材を育成する。	○国、公共自治体が認証する資格取得教育、技能教育に専念し、地域が要求する職業人能力の育成に努めた。
②全学生に「キャリアマナー」の履修と特定学科での「キャリアデザイン」の履修を体系化する。	I-1-2	○職業人として気持ちの良い職場環境作りの素養を養う。	○職業人として気持ちの良い職場環境作りの素養を養うため、一緒に働きたいと思われるマナー、立ち振る舞いを身に付けさせた。

(2) 学科毎に職業に直結した専門知識・技術・技能を持った人材育成のために、教育課程編成の再構築を行う。			
① 職能団体の要請と技術の進化に伴い、カリキュラムを弾力的に編成し、逐次教育内容の見直しを行う。	I-2-1	○地域のニーズに対応した魅力的なカリキュラムにする。 ○各学科の取得資格の拡充をする。	○地域のニーズに対応した魅力的なカリキュラムにする為、各学科の取得資格を拡充し、取得資格の合格率向上を目指した。
② 事業現場の中核を担い、現場レベルの改善・革新を牽引できる人材を養成するために、学生参加型の授業展開を推進する。	I-2-2	○実務経験豊富な教員による現場に即した授業を実践する為、実務を授業に取り入れる。	○実務経験豊富な教員により、実務を授業に取り入れ、インターン実習を1年次から導入し、職業現場を早期に理解させた。
③ 多様な校外実習と現場体験により、社会のニーズを感知できるよう研修施設の開拓に努める。	I-2-3	○文部科学省職業実践専門課程外部委員の校外実習に関するアドバイスをカリキュラムに積極的に取り入れる。	○文部科学省職業実践専門課程外部委員の助言をカリキュラムに反映させ、外部団体イベント等に積極的に参加した。
(3) 建築学科専攻科と動物系総合学科研究科の意義を再考し、人材目標に合ったカリキュラム編成に重点を置く。			
① 専攻科と研究科は更なる技術向上を目指す為、ワンランクレベルの高い学科として位置付ける。	I-3-1	○①在学中に二級建築士を取得する。 ○②動物系各学科基本技術修得のうえに他の興味ある分野に挑戦する。	○①在学中に二級建築士を取得し、さらに一級建築士にも挑戦できるよう専攻科の充実を目指した。 ○②研究科は、ワンランクレベル向上学科として求める人材像を明確にした。
(4) 入学者確保のための新たな学費軽減策を検討する。			
① 学科毎の受験者数に応じて、奨学生枠を付与する方法を模索する。	I-4-1	○特待生入試制度の充実。 ○指定校制度の充実。	○特待生新制度と指定校制度を充実させるとともに文部科学省授業料無償化制度の適用を目指した。
② 受験者の多い学校との連携を強化する仕組みを開発する。	I-4-2	○高等学校の研究発表会等の指導・助言をする。	○高等学校の研究発表会等に出席し、指導・助言をした。
(5) 授業アンケートの完全実施と集計・分析による授業評価を実施。教育の質の高位平準化のための教員研修の促進。			
① 学習者目線での授業展開を目指し、常に授業改善を実施する。アンケート結果によって、授業評価を行い、改善策の指導を実行する。	I-5-1	○学生による授業アンケートを前期末、後期末に実施し、授業の改善を図る。	○学生による授業アンケートと前期末、後期末に実施し、授業内容の改善を図った。
(6) 学科毎の目標資格取得率を全校で共有。			
① 各種資格取得率	I-6-1	○クラス全員の意識向上を図り、	○クラス全員の意識向上を図り、全員

を格段に上げる。資格取得困難学生を重点的にサポートする。		合格率を上げる。	合格を目指した。
(7) 関連企業・団体との連携による教育課程編成。			
①職業実践専門課程の認定要件である「教育課程編成委員会」の年2回の開催を以て、関係業界が求める人材養成に努める。	I-7-1	○適切な教育課程編成委員会による委員会を年2回開催する。	○教育課程編成委員会の初回は、年度当初に開催し、年度カリキュラムに対する意見を聴取、2回目は年度後半に開催し、次年度カリキュラムに対する意見を聴取した。

II. 研究・創作について

1. 研究・創作に関する中期目標			
中期計画		令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
(1) 研究の重点化やブランド力の向上を図る。			
①各学科の教育目標と知的・物的資源に鑑み、当該業界での問題に対しての解決方法を提案していく。	II-1-1	○学生グループによる自主的研究を助長し、課題解決能力を高める。	○学生グループによる自主的研究を助長し、課題の論理的構成力とプレゼンテーション力を高めた。地域社会の提案を研究し、課題を探った。
(2) 附帯事業における利潤を追求する。			
①各資格取得の専門講座を充実させる。	II-2-1	○各資格取得の為の専門講座を充実する。	○各資格取得の為の専門講座を充実させた。

III. 学生支援について

1. 学生支援に関する中期目標			
中期計画		令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
(1) 楽しい学校を先ず学生に印象づけ、欠席や中退から無縁であるよう、全校で醸成する。			
①入学生と在校生の交流の場を増やす取り組みを模索する。	III-1-1	○同窓会の役割を見直し、学校帰属意識を高め、学友会を充実する。	○学友会による全校球技大会、理専祭を開催することにより、学生の交流の場を増加させた。
(2) キャリア形成支援を行う。			
①正課のキャリア教育と正課外のガイダンスや講演との有機的な接続を図る。	III-2-1	○①実績のあるキャリア教員による授業の充実を図る。 ○②学外から正課外キャリア教員の招聘による独自授業をする。	○①実務家教員によるキャリア教育を主眼とした授業科目を実施した。 ○②学外正課外教員招聘による独自授業をした。
②社会で活躍する卒業生の講演を企画する。	III-2-2	○研究発表会等で、卒業生による特別講演の実施。	○研究発表会等で、本校卒業生による特別講演を実施した。

③全校一斉の挨拶週間、ゴミ拾い、ボランティアデーを設けることで、学生一人一人にキャリア形成の重要性を認識させる。	Ⅲ-2-3	○①学生、教職員の挨拶励行。 ○②地域の清掃活動へ参加。 ○③早期から社会人、職業人意識の醸成。	○①学生、教職員の挨拶励行に努めた。 ○②地域の清掃活動に参加した。 ○③一年次からインターンシップ実習を実施した。
(3) 心身に問題を抱えた学生の学生生活をサポートする。			
①教育相談室と各チューターの懇談の場を設け、学生の悩みに向けて相互協力体制を敷く。	Ⅲ-3-1	○教員と学生の距離を感じない環境を醸成する為、チューター制度を充実させる。	○チューター制度を充実させ、学生一人一人の就職、就学支援を行った。
②発達障がい者に対する接し方を学ぶ外部講師招聘による教員研修を増やす。	Ⅲ-3-2	○外部講師を招聘し、教員研修を行う。	○適切な外部講師による教員研修を行った。
③身体障がい者の校内設備利用の利便性を上げるための教職員研修を増やす。	Ⅲ-3-3	○身体障がい者の修学を容易にする為、個々の障がい状況に応じた支援を教職員で共有する。	○個々の障がい者に応じた支援方法を定例会議で協議した。
(4) 正課外活動についての支援。			
①独自のクラブ活動や団体参加のクラブ活動の参加に努める。	Ⅳ-4-1	○学生のクラブ活動や課外活動を支援する。	○正課の時間外、休日における学生のクラブ活動、課外活動を支援した。
(5) 学生の修学を促進する取組を行う。			
①修学困難な学生の修学支援を積極的に進める為、広報活動に努める。	Ⅳ-5-1	○チューター制度を活用し、修学困難学生の支援をする。	○チューター制度の活用により、個々の学生の身上相談、修学支援をした。

IV. 国際化について

1. 国際化に関する中期目標		
中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
(1) 留学生の受け入れを行う。		
①クラスのコミュニケーションを推進する。	Ⅳ-1-1	○留学生の修学を容易にする為、クラスコミュニケーションをすすめる。 ○留学生の孤立を防ぐ為、クラスチューターは積極的にクラスコミュニケーションを図った。
②一人一人の学生に真摯に向き合う	Ⅳ-1-2	○全教職員が個々の留学生に対する知識を共有する。 ○個々の留学生の出身国、生活習慣を理解し、意志疎通を図る為、教員研修を行った。

V. 地域社会連携・貢献について

1. 地域社会連携・貢献に関する中期目標			
中期計画		令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
(1) 地域社会交友を促進する。			
①地域のボランティアに積極的に参加する。	V-1-1	○自治体や地域が開催する清掃活動等、地域活動に参加する。	○自治体開催の動物愛護フェスティバルや地元町内会の清掃活動に参加した。
(2) 関連機関・団体との連携・協力を行う。			
①常に時代のニーズに合った職業人を養成する為、情報収集に努める。	V-2-1	○時代のニーズをカリキュラムに反映する為、国、自治体、外部団体の動物関連情報把握に努める。	○学校の所属団体研修会、企業説明会、学会等に積極的に参加し、情報を収集した。

VI. 組織・運営について

1. 地域社会連携・貢献に関する中期目標			
中期計画		令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
(1) 学校運営・教育方針の周知徹底を図り、全教職員の共有化できる体制づくりを策定する。			
①「建学の理念」「専門学校の使命」を念頭に多面的に捉えた「学校運営」「教育方針」の見直しを協議する体制を構築し、流動的な社会情勢に呼応できる学校運営に資する。	VI-1-1	○地域社会のニーズを先取りしたカリキュラムを策定していく。	○外部団体の学会、イベント、研究会等へ積極的に参加した。 ○地域のニーズを反映したカリキュラムを策定した。
②方針に基づき、校長を中心とした意思決定会議を明確にし、各組織の長の権限と責任を明確にする。	VI-1-2	○常に教職員が意思疎通を図り、適正な執行に努める。	○学校運営会議を月2回、職員会議を月1回開催に努め、適正な課題解決に努めた。
(2) 教員の能力開発・評価を行う。			
①教員自己点検シートにより、主体的な能力向上を図り、自己目標とその達成度を評価する。	VI-2-1	○教員の自己点検シート、授業アンケートにより自己研鑽に努める。	○自己点検シート、授業アンケートにより自己研鑽に努めた。
②関係機関との協力のための教員派遣を推進する。	VI-2-2	○自治体等関係機関の事業推進に協力するため教員派遣を行う。	○自治体、学会、研究会等の役職を本学教員が積極的に遂行した。
(3) 教員の人材育成システムを構築する。			

① 職能団体などの情報収集並びに研修先の開拓を図る。	VI-3-1	○職能団体の研究会イベントに参加して情報収集を図る。	○職能団体の研究会、イベントに参加して、学生の就職、研修先を開拓した。
② 教員研修規約に則り、年間教員研修経費の予算を立てて教員派遣を推進する。	VI-3-2	○新任教員、中堅教員を各種研修会に参加させる。	○新任教員、中堅教員を各種職能団体が主催する研修会に参加させた。

VII. 内部質保証について

1. 内部質保証に関する中期目標			
中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告	
(1) 内部質保証システムを確立する。			
① 機関評価並びに分野別評価の実施に向けて、幹部職員を研修に派遣する。また、第三者評価機関の評価に対応するため、学校評価委員会を組織する。	VII-1-1	○文部科学省の職業実践専門課程にトリミング学科を申請する。 ○実験動物実習に伴い適切に倫理委員会を開催する。	○トリミング学科の来年度申請に向けての準備をした。 ○適切に倫理委員会を開催し、動物実験を行った。
② 学校自己評価に加え、学校関係者評価を行い、結果の情報公開を履行する。	VII-1-2	○学校自己評価並びに学校関係者評価を実施する。	○学校自己評価委員に外部委員による学校関係者評価を実施し、実施結果を公開した。
③ 運営側と各下部組織の意思の疎通が図られるような対話の場と機会創出に努める。	VII-1-3	○学校運営会議を月2回定期開催し、会議結果を全教職員で共有する。	○学校運営会議を月2回定期開催し、会議結果を各部長より全教職員の周知を図った。
(2) 情報の収集と分析を行う。			
① 学会、研究会に積極的に参加する。	VII-2-1	○各種学会、研究会に参加する。	○各種の関連議会、研究会に参加した。
② 自治体、団体の会議に参加する。	VII-2-2	○法に基づく自治体の会議、団体の会議に参加する。	○愛玩動物推進協議会等法に基づく自治体会議や団体会議に参加した。
③ 職業実践専門課程での会議を積極的に活用する	VII-2-3	○外部委員の意見・助言をカリキュラムに反映する。	○外部委員の意見・助言をカリキュラムに反映させた。

VIII. 教育研究環境について

1. 教育研究環境に関する中期目標			
中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告	
(1) 教育環境のチェックにより、安全で快適な教育環境を目指す。			
①既存建物の耐震診断を実施し、結果次第で年次計画を立てて、改修・補修工事等の実施を実現する。	VIII-1-1	○既存建物の耐震検査を実施し、年次計画を立てて、改修補修工事をする。	○築40年を過ぎている為、建替え等を含めた検討を行った。
②施設・設備、備品の老朽化をいち早く察知し、最新の設備の導入に向けて、整備計画を策定し逐次実施する。	VIII-1-2	○設備・備品の点検を逐次行い、施設・設備整備計画を策定し逐次更新をする。	○設備・備品の点検を行い、医療用機器等、逐次更新をした。
③校内禁煙策を協議し、快適でクリーンな校内環境を目指す。	VIII-1-3	○校内全面禁煙を目指し、快適でクリーンな校内環境にする。	○喫煙場所2カ所を建物外に設けた。
(2) 安全衛生管理体制を構築する。			
①教職員・学生の安全意識の啓蒙に努め、防災委員会の中に環境アセスメントを導入し、安全管理体制の強化を目指す。	VIII-2-1	○教職員、学生の防災意識を向上させる為、年1回以上防災マニュアルに基づき訓練をする。	○校舎裏、山側面の斜面崩壊を想定し、独自防災マニュアルを策定し、防災の日に合わせ、避難訓練を実施した。
②ユニバーサルデザインの追求により、全学生及び外来者が利用しやすい施設整備を推進する。	VIII-2-2	○関係外部団体の校舎使用を推進する。	○岡山県獣医師会、動物愛護団体等の関係外部団体の施設使用に協力した。

IX. 運営・財政基盤について

1. 運営・財政基盤に関する中期目標			
中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告	
(1) 教育の基盤は安定した財務状況に起因することを校内統一見解として、各自が財務安定化に向けて目標を持つ。			
①人件費率の安定化(60%)を図る。	IX-1-1	○人件費比率の安定化を図る。	○人件費比率安定化の為、適切な教職員配置に努めた。

②教育研究費の削減には限界があり、在校生数に比例した経費の予算組を立てる。	IX-1-2	○教育・研究費の適正運用を行う。	○教育・研究費適正運用の為、入学生の増加と適切な予算執行に努めた。
③収支の改善を実施する。	IX-1-3	○収支の改善に努める。	○収支の均衡を図り、適切な予算執行に努めた。
(2) 広報・ブランディング戦略			
①地域の自治体内、団体の動向を的確に把握する。	IX-2-1	○地元町内会、各種団体主催イベントに参加する。	○地元町内会の清掃活動、自衛隊、岡山県、岡山市主催イベントに参加した。

X. その他について

1. 運営・財政基盤に関する中期目標			
中期計画		令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
(1) 文部科学省が制度化する専門職大学は、専門学校を取り巻く客観情勢を分析して研究を進める。			
①文部科学省が制度化する専門職大学は継続して研究する。	X-1-1	○文部科学省が制度化する専門職大学については、継続して研究する。	○文部科学省が制度化する専門職大学については、令和2年度も引き続き継続して研究する。
②専門学校の特徴である地域のニーズに対応した柔軟なカリキュラムを活かし、職業実践専門教育の充実に努める。	X-1-2	○専門学校の特徴を強化し、地域社会・地域職業に定着した専門学校を目指す。	○地域における職業実践専門学校とし、技術力、仕事力を持つ職業人、社会人の育成に努めた。

主な行事

4月8日	入学式
4月9日～10日	昼間部・夜間部オリエンテーション
4月12日	昼間部・夜間部前期授業開始
6月11日	球技大会
7月16日～8月17日	夏季休暇
9月4日～10日	前期末試験（夜間部は9月10日まで）
10月1日	昼間部・夜間部後期授業開始
10月19日・20日	RiSEN祭
12月23日～1月6日	冬季休暇
1月29日～2月4日	昼間部・夜間部後期末試験
3月20日	卒業式

学生・教職員数

■在籍学生数

（令和元年5月1日現在）

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
工業 専門課程	建築学科(昼間部)	40	51	80	101
	建築学科(夜間部)	20	11	40	24
	福祉住環境デザイン学科 (募集停止)	—	—	—	—
	計	60	62	120	125
商業実務 専門課程	映像情報学科 (募集停止)	(募集停止)	—	—	—
	計	(募集停止)	0	0	0
文化・教養 専門課程	動物看護学科 3年制	30	9	90	24
	〃 2年制	20	15	40	37
	トリミング学科	40	14	80	37
	ドッグトレーニング学科	40	18	80	33
	アクアリウム学科	40	34	80	59
	計	170	90	370	190
合計		230	152	490	315
専攻科	建築学科専攻科	10	8	10	8
研究科	動物系総合学科研究科	10	11	10	11

（単位：人）

■教職員数

(令和元年5月1日現在)

校長	教員	教員 計	事務職員
1	10	11	9

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(令和元年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
岡山理科大学専門学校	169	128	125	98%	25	16	1	2

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (令和2年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	倉敷市役所、(株)荒木組、蜂谷工業(株)、ミサワホーム中国(株)、倉吉動物医療センター・山根動物病院、祇園アニマルクリニック、ペットショップ chou chou、マシユマロドッグ、岡山県自然保護センター、(株)日本チャンキー、太地町立くじらの博物館、アクアプランテーション グッピー、他102事業所
-------	---

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	平成30年度 決算額	令和元年度 決算額
教育活動 収入	学生生徒等納付金		293,976	270,852
	経常費等補助金		64	54
	その他収入		5,913	6,057
	計		299,953	276,963
	教育活動 支出	人件費		175,925
教育研究経費			63,837	60,525
管理経費			27,426	25,873
その他支出			0	0
計			267,188	263,226
教育活動収支差額			32,765	13,737
教活外	収入	受取利息等	1	0
	支出	借入金利息等	405	341
	教育活動収支差額		△ 404	△ 341
経常収支差額			32,361	13,396
特別	収入	資産売却差額等	203	45
	支出	資産処分差額等	77	0
	特別収支差額		126	45
基本金組入前収支差額			32,487	13,441
基本金組入額合計			△ 17,462	△ 19,182
当年度収支差額			15,025	△ 5,741